

ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況

2005年8月2日

2005年7月31日概況：

7月31日に終わる1週間の始めに、州中央部から東部に掛け平年より低い気温と、驟雨と時に雷雨を伴った気象であったが、週の終わりになり気温は上昇し、湿度の高い気象となった。最高気温は各地で90度Fを越し、最低気温は50度以下であった。この大きな温度差が結露の原因となった。1週間の平均気温は各地で略平年並みであった。地区の1週間の平均降水量はNW地区では0.18インチ、EC地区で0.28インチ、SE地区が最も多くて0.94インチであった。Topsoilの土壌水分は前週より多少落ちた。Subsoilの水分は“過剰”が減少し“適”が増えたが、同時に“不足”の圃場も増加した。1週間の農作業稼働日数は6.3日（前週：6.1日）であった。

HRSは全体の70%が登熟期にあり、2%が収穫された。Durum小麦は78%が乳熟期、37%が登熟期となった。Durum小麦の収穫が開始された。HRS及びDurumとも昨年並びに5年平均より早い生殖成長をしているが、収穫開始は略平年並みであった。小麦と大麦にScabの発生が報告されたが、被害程度は未定。

HRS及びDurum小麦の作柄は前週より“Excellent”が減少し、全体として評価が多少落ちた。

7月1日付けUSDA発表のHRS及びDurum小麦の生産量予想では、HRSの単位収量は昨年実績と同数の41.0 bu/acであり、Durumは昨年実績より1 bu/ac多い34.0 bu/acであった。播種期が早めであったこと、その後の出穂期までの天候が生育に適し降雨が全般に多かった事がプラス要因であった。詳細は別表の通り。

土壌水分：2005年7月31日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Yr Average
Topsoil				
Very Short (%)	1	0	17	10
Short (%)	17	10	25	24
Adequate (%)	77	79	55	60
Surplus (%)	5	11	3	6
Subsoil				
Very short (%)	2	1	18	10
Short (%)	11	8	22	20
Adequate (%)	79	78	56	62
Surplus (%)	8	13	4	8

小麦生育状況：2005年7月31日現在

	This week	Last week	Last year	5-Year Ave.
Durum Wheat				
Headed (%)	97	81	87	93
Milk (%)	78	52	65	68

Turning (%)	37	18	28	29
Harvested (%)	1	NA	1	1
HRS Wheat				
Milk (%)	95	80	83	87
Turning (%)	70	45	44	55
Harvested (%)	2	NA	1	3

HRS 小麦の作柄 : 2005 年 7 月 31 日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This Week (%)	1	6	21	59	13
Last Week (%)	2	5	20	57	16

Durum 小麦の作柄状況 : 2005 年 7 月 31 日現在 :

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This Week (%)	0	2	10	66	22
Last Week (%)	0	1	13	63	23

Source: ND Agricultural Statistics Service

2005 年 7 月 1 日付け USDA 生産量予想 :

	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
HRS	5,950	6,600	41.0	-	41.0	243,950	270,600
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740
Durum	1,600	1,700	33.0	-	34.0	52,800	57,800
State	2,363	2,453	38.0	-	38.4	89,893	94,075

当該作柄レポートへのご質問・ご意見は下記宛てにお願い致します。

小川正晃: E-mail ogawa.max@omicnet.com